

A-3 奥穂高岳・南稜

【山行日】2021年07月31日～8月1日

【CL】3314 【参加者】3527 3580 3588

【コース】7/31 11:20 上高地バスターミナル…14:10 岳沢テント場…16:00 南稜取り付き偵察…17:10 岳沢テント場

8/1 04:50 テント場…05:20 南稜取り付き…6:25 ルンゼ分岐…7:15 スラブ岩壁…8:40 トリコニー I 峰…11:10 南稜の頭…12:50 紀美子平…15:10 岳沢テント場…17:30 上高地バスターミナル

奥穂高岳南稜は1912年ウォルター・ウェストンが上條嘉門次を案内人とし、初登した古典的なルートだ。人気のルートであるがゆえ事故も絶えない。1日目、暑さと疲労に言葉数が減ってきた頃、翌日に登攀する南稜の方面でヘリがホバリングしている。一抹の不安を感じ見上げる私たちの上空を2度往復していった。



2日目、岳沢のテント場を出たのは夜が明けから。予報では大気が不安定、午後から雷雨になる恐れがある。午前中が勝負だ。前日の下見が功を奏し、雪渓を詰め取り付きへは迷いなくスムーズに進む。取り付きからは見事な柱状節理の岸壁を横目に、浮石の多いガレ場を進む。落石に注意し徐々に標高を上げていくと眼下には、岳沢のテント場、上高地、焼岳、霞沢岳はるか乗鞍岳まではっきりと見て取れた。

昨夜の雨に濡れさらに滑りやすい苔むした岩場を登ると、三俣に分かれたルンゼに出た。ここでCLから中央ルートの提案が。一同、異議なくクライミング要素がより強いルートを進むことに。皆が初見の道なき道を慎重にルートファインディングする。チームが一致団結し迷わぬよう慎重に進む。スラブの岸壁基部を右ヘトラバースしブッシュの切れ間から右支稜へ。ロープを出し2ピッチ、CLとSLが各1Pずつリードする。フォロー二人はクライムハイストで登る。雄大な景色を眼下に、高度感あるクライミングだ。その後はロープ使用しなかったもののトリコニー I 峰 II 峰、そしてナイフリッジと油断はできない緊張感が続く。この頃、明神岳、奥穂高方面もガスがかかり時折視界が白くなる場面も。



短い懸垂下降も難なく通過。そしてお花畑の入り混じるガレ場を九十九折に進むと南稜の頭に到着だ。すでに11時を過ぎていたため奥穂高岳登頂はパスとした。途中、吊尾根ではライチョウの親子に癒されながらも、徐々に近づく雷の音にせかされるようテント場へと到着。雨に濡れることなく撤収、下山開始。岳沢小屋を越え樹林帯に入る頃に雷雨が降り出した。



下山後は温泉へ。こんな時世に珍しく格安で遅い時間まで開いているとは！まさしくともしびである。雷雨に濡れ冷えた体を温めホッとした。(3588)